

財産区の可能性！？趣味コミュニティで維持管理/活用する

【活動概要・他でもありそうな課題】

《活動》

地域の財産区である森林資源を活用したマウンテンバイク専用コースの整備・運営を通じ、地域活性化と森林の維持管理を行う。また、初心者や子どもでも安心してマウンテンバイクを楽しめる場の提供を目指している。

《課題》

行政によって整備された財産区の維持管理を自治会が担わなければならないが、人口減少や高齢化の進行により、自治会だけでこれを十分に維持するのが難しくなっている。そのような背景から一度行政により整備された財産区が放置されてもとに戻ってしまうといった事態が相次いでいるといった現状がある。



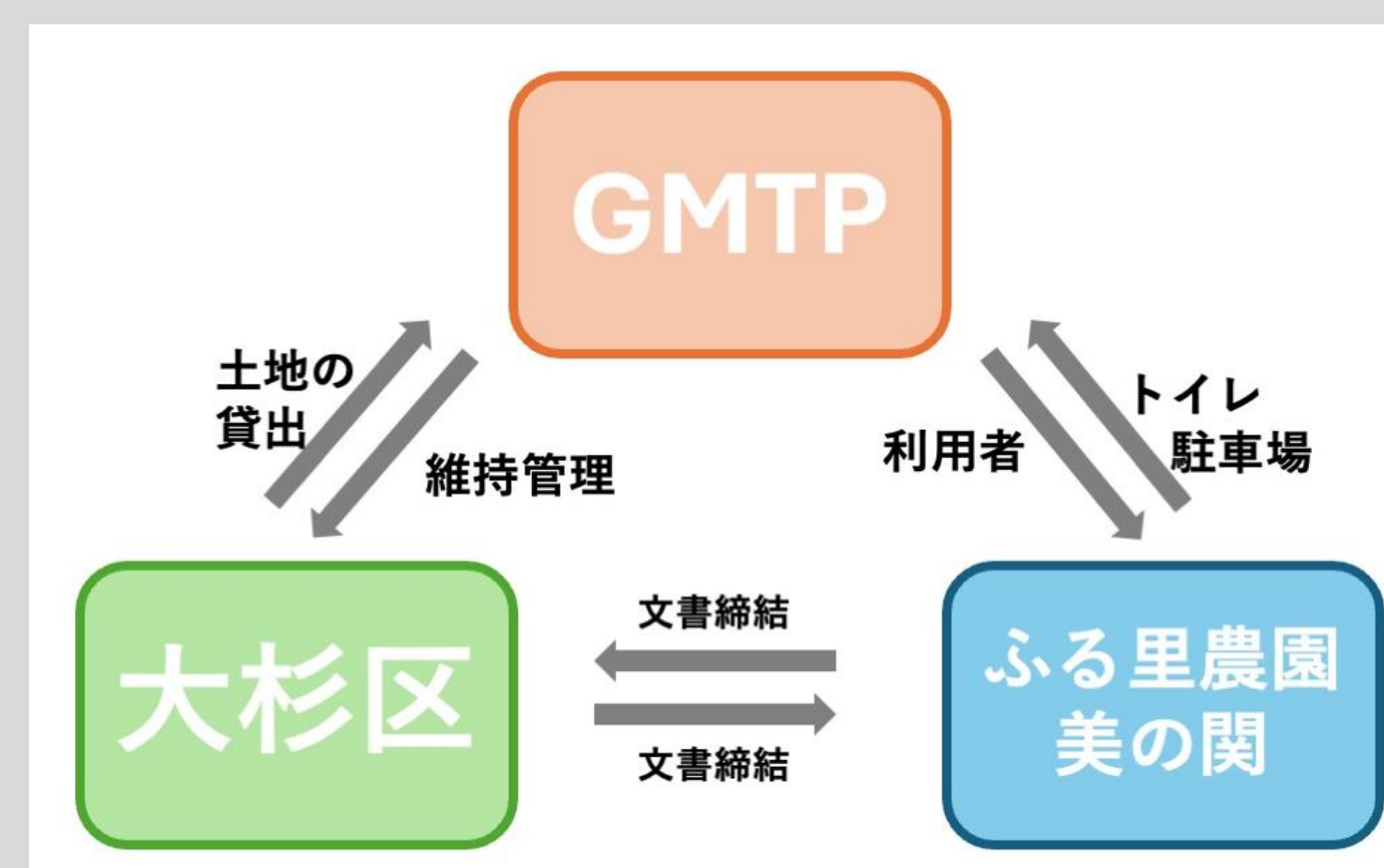
【マネできそうな手順や事例】

財産区×趣味コミュニティで維持管理/活用する

MTB（マウンテンバイク）愛好者の団体が、財産区を自治会から無償で貸し出してもらい、コースの整備や管理に直接関わることで、自治会に負担をかけることなく、土地の有効活用を実現している。財産区の維持管理や自治会とのやり取りに関するTTPポイントと手順を示す。

実際の組織図

右図の3者間で協定を結んでいる



《手順》

①自治会が財産区の活用を呼びかけ、趣味コミュニティとマッチングする

※この際、自治会長が変わっても運営できるよう第三者も巻き込んで文章として締結書を交わす

②趣味コミュニティが整備された財産区の維持・管理を行う

※活用したい方法に合わせて財産区を管理できるよう利用可能な状態になるよう手を加える

～大杉MTBの運営方法について～

大杉MTBでは、有志ボランティアによって10個のコースを整備。

運営資金は、訪れた人からの寄付金と自転車ショップからの寄付金により賄う。

悪天候の日を除いて日中は常に解放されているが、ボランティアスタッフは常に常駐しているわけではない。



ポイント

・対象者（ターゲット）を明確にした施設運営を行う

※対象者を広げすぎると運営が複雑化するため、長期間にわたって運営できるよう対象者を絞る

・補助金は使わない

※申請が大変であったり、使える用途が長続きしない等の問題が起るため、寄付金なしで運用できる体制で施設を運用する

ボランティアのルール

①ボランティアスタッフも楽しめる環境、体制づくり

②当番制はなし

できる人ができることをできるタイミングで行い、無理はしない

③情報はみんなで共有（SNS）、やりたいことはみんなで相談

④「MTBの初心者のために」という目的を見失わない

【獲得できた効果】

《自治会から見た効果》

➢ 自治会の負担減

自治会が手をかけることなく、財産区の維持管理の問題を解決している。

➢ 周辺地域も含めた活性化

MTBトレイルでは、2024年8月時点で20,000人の来場者数を達成しており、ふる里農園を含め大杉区にくる来訪者が増加している。

《実施者から見た効果》

➢ マウンテンバイクを楽しめる場所

マウンテンバイクが好きな人が手軽にだれでも、いつでも、気軽に遊べる場所を、アクセスが良い関市で運営できている。

➢ やりたいことに挑戦できる環境

土地代がかからないため、運用資金が少なく済むことや、農園のトイレを利用できることでトイレの問題がないことから、自分たちがやりたいことに専念できる環境がある。